

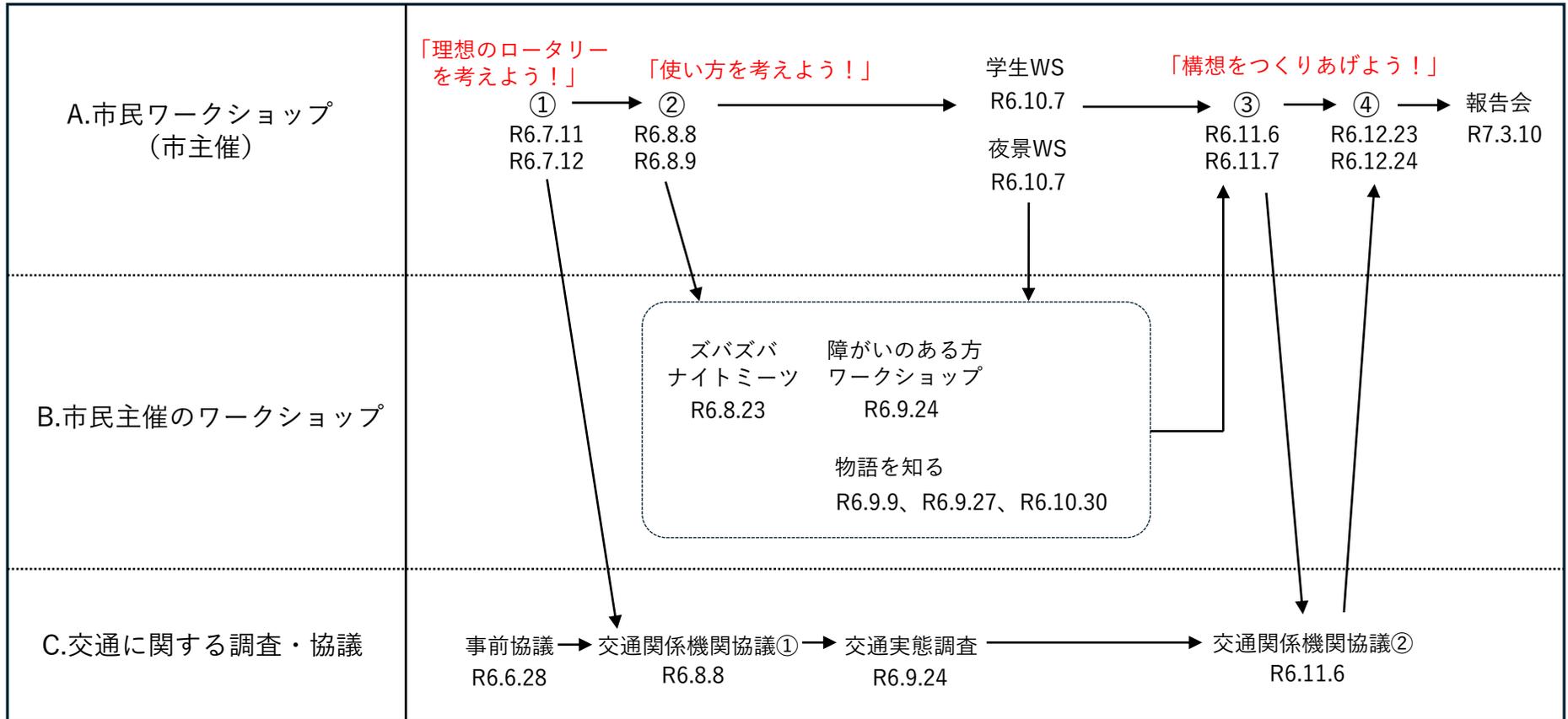
知多半田駅東ロータリーリニューアル基本構想（令和7年2月）【概要版】

現在、車中心のロータリーとなっている知多半田駅東口の駅前空間を、中心市街地活性化の観点から人が居心地良く滞在でき、多様な利活用が可能な魅力的な広場へ改修するための基本構想を策定するものである。

問合せ：半田市 市民経済部 産業課（0569-84-0634）／sangyo@city.handa.lg.jp

1 検討プロセス

知多半田駅東ロータリーリニューアル基本構想策定にあたっては、市主催「A.市民ワークショップ」における意見交換を軸としながら、市民ワークショップ参加メンバーによる「B.市民主催のワークショップ」での意見も踏まえ、交通事業者や交通管理者、道路管理者等の関係機関を含めた「C.交通に関する調査、協議」において意見交換しながら検討を進めた。



2 整備方針

<知多半田駅東ロータリーの将来イメージ>

みんなの日常的な居場所

+

いろいろな企画に使いやすい広場

「1. 検討プロセス」では、周辺地域で暮らす人や働く人、駅やクラシティ等の周辺施設の利用者等にとって「日常的な居場所」となることを望む意見が多く得られた。特に、特定のターゲットを設定するのではなく、子ども、学生、子育て世代、高齢者等、世代や性別を問わず「みんな」にとって居心地の良い場所となることが重要視されていた。eコマース（インターネットを通じた買い物）が社会に浸透する中、「買い物」は中心市街地にでかける動機として相対的に弱くなっており、近年まちづくりにおいても時間価値を重視した「プレイスメイキング（＝居場所づくり）」が主要なテーマとなっている。検討プロセスで得られた意見はこうした時代性とも整合していた。

また、これまでに市民によって取り組まれてきた「HANDA STREET TERRACE」や「ランブリングフェスティバル」等の企画イベントがより実施しやすい広場となることを求める意見も多かった。マルシェや子どもの遊び場づくり等の暮らしを楽しく、豊かにする様々な取り組みが東ロータリーや隣接する泉線で実施され、賑わいを創出し、周辺に波及することは、半田市が進める中心市街地活性化事業の方向性とも整合している。

「将来イメージ」の実現に向けて

【整備方針】

- ①交通安全性と乗り換え利便性に配慮しながら交通ロータリーをコンパクトにし、交流広場を可能な限り確保する
- ②交流広場はあらゆる人の「日常的な居場所」となるように整備する
- ③交流広場はマルシェや子どもの遊び場づくり等の様々な取組で使いやすいように整備する
- ④市民や民間事業者等の「やりたい！」を支える持続的な管理運営の仕組みを公民連携で構築する

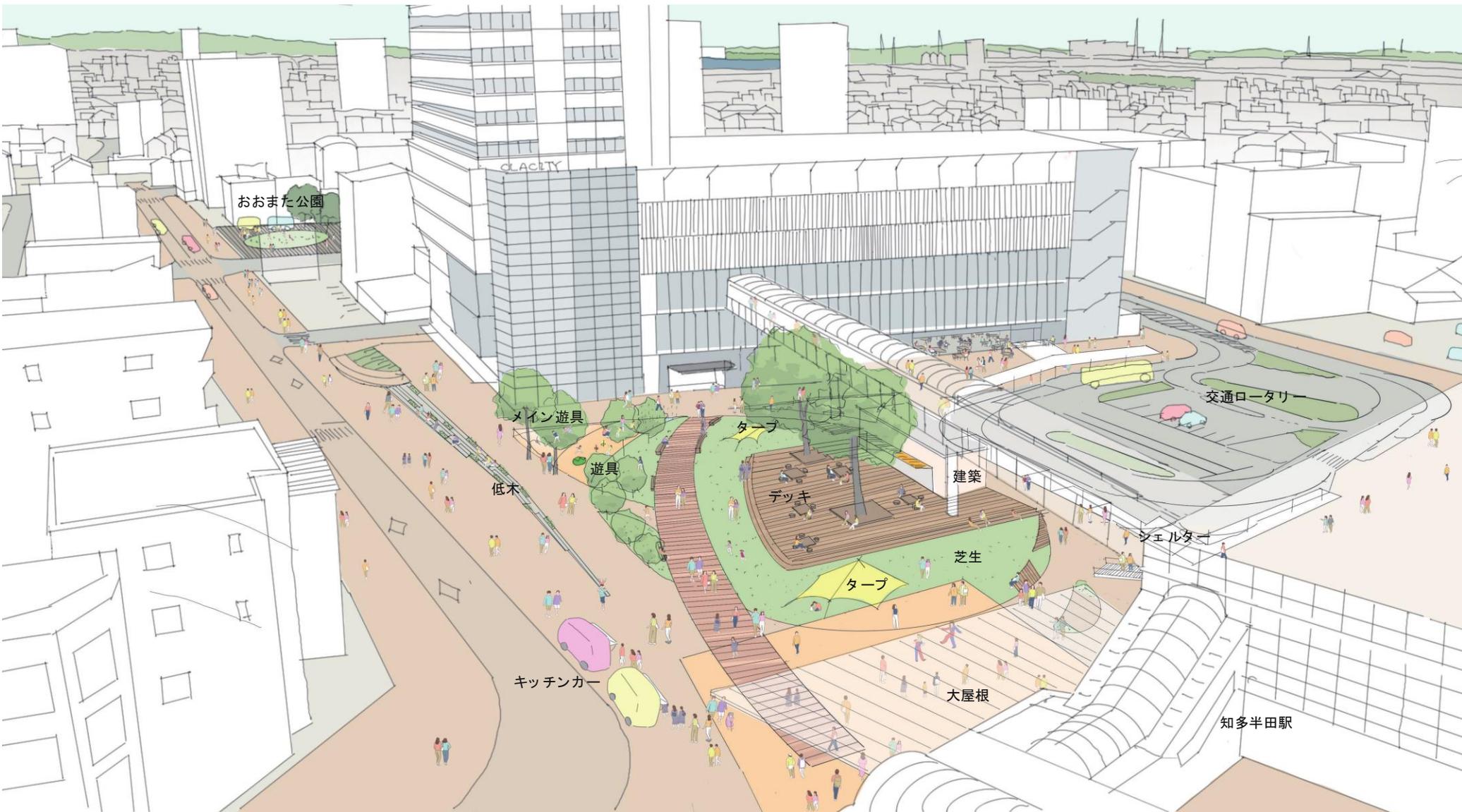
3 施設配置計画

整備方針を踏まえ、必要な交通機能を確認しつつ、空間の効率的な利用による交通ロータリーのコンパクト化を実現する施設配置計画を以下のとおりとする。



4 整備イメージ

建築と一体のデッキ空間を中心に、周囲に個性ある場所が展開する広場整備イメージを以下のとおりとする。



*イメージ図であり、今後変更になる場合があります。